

History of Asahi Ward

旭区

地域史

大阪市旭区地域史づくりワークショップ

しみず

清水 編

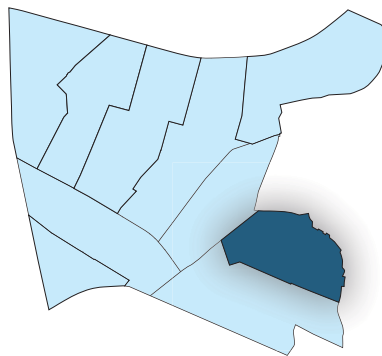
昭和34年の清水小学校周辺

区民による地域史づくり・人づくり

平成21年3月

いまむかし

旭区の今昔を知る会
大阪市旭区役所



旭区地域史

区民による地域史づくり・人づくり 大阪市旭区地域史づくりワークショップ

平成20年度実施地域 清水・新森・高殿南

はじめに～地域史について

■この「旭区地域史」は、地域の歴史を発掘する区民の取り組みとして、平成20年5月27日から平成21年3月5日の約10ヶ月間に計11回ワークショップを開催し、その成果として参加者の手によって作成されたものです。ワークショップは、地域史の作成とともに、「知って得する旭学講座」などで積み重ねてきた経験等を活かした人材の育成、活動を通じて地域コミュニティのさらなる向上を図ることも目的としています。

■ワークショップに参加された方は、これまで地域を研究されていて歴史について大変知識のある方から、旭区にずっと住んでおられるが地域の歴史をあまりご存じでない方までいらっしゃいましたが、「地域史をつくる」という1つの目標に向かって一丸となり取り組みました。

■今後は、旭区民が作成した初の「地域史」として、多くの方々に興味を持っていただき、地域のコミュニケーションを高めるツールや学校の教材など、様々な場面で活用されていくことが期待されます。

■地域史の作成にあたり、各種資料をご提供いただいた関係機関の皆様、心からお礼を申し上げます。



■第1回(平成20年5月27日)



■第2回(平成20年7月10日)



■第3回(平成20年9月3日)



■第4回(平成20年9月25日)
まちあるき(鶴見緑地)



■第5回(平成20年10月7日)
まちあるき(清水・新森)



■第6回(平成20年10月22日)



■第7回(平成20年11月5日)



■第8回(平成20年12月4日)



■第9回(平成21年1月27日)

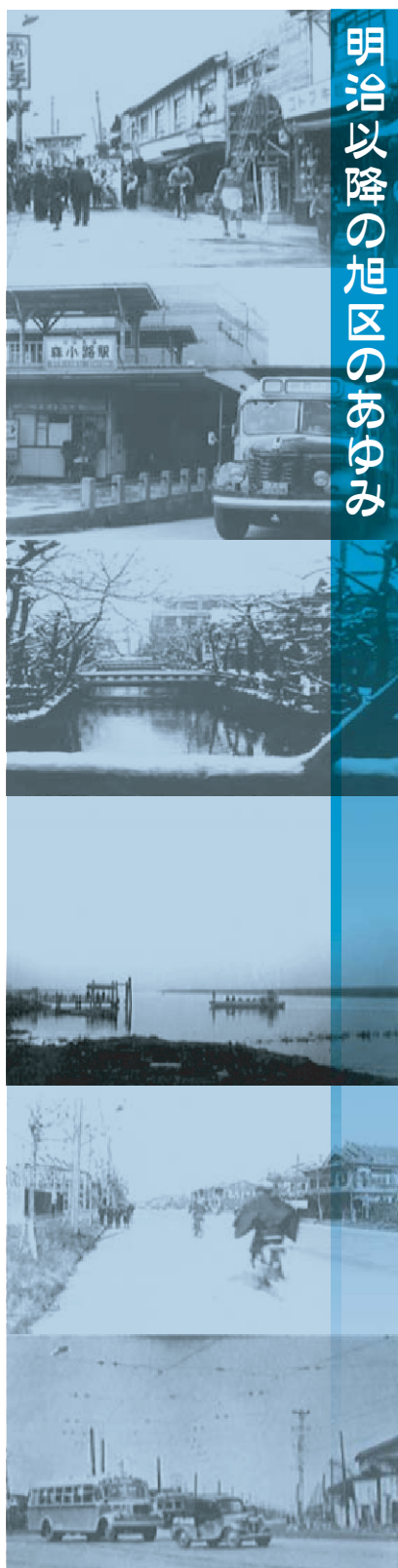


■第10回(平成21年2月16日)



■第11回(平成21年3月5日)

旭区でそれはいつから始まったのか？	3
地域の移り変わり	4
清水のテーマ	5
ワークショップの活動記録	6
八幡大神宮	7
あの戦後いくばくも経っていない頃の	10
遠い日の思い出である	
清水小学校	11
昭和25年（1950年）の卒業記念アルバム	13
清水3丁目「上辻町」	15
江州音頭	16
般若寺跡	17



明治以降の旭区のあゆみ

明治	4年 (1871)	廃藩置県（大阪府を置く）	旭区域は摂津県東成郡に属す
	6年 (1873)	千林小学校創立	
	8年 (1875)	淀川修築工事着工 水制（ケレップ）工事が始まる	
		中村小学校（現、城北小学校）創立	
	18年 (1885)	淀川左岸決壊し、大洪水が起こる。翌年にかけてコレラが大流行	
	22年 (1889)	市制町村制施行（大阪市発足）	旭区域は東成郡のまま 清水、古市、城北村がこの頃成立。
大正	29年 (1896)	淀川大洪水	翌年から淀川改良工事が始まる
	43年 (1910)	京阪電車開通（天満橋～五條間）	蒲生・野江・森小路駅開設
	45年 (1912)	この頃、千林商店街ができる。	
	6年 (1917)	城北村に初の上水道給水	
	7年 (1918)	米騒動が起こる	
	11年 (1922)	古市・清水小学校創立	関西工学専修学校(現大阪工業大学)創設
昭和	13年 (1924)	古市耕地整理組合設立	城北村で共同浴場開設
	14年 (1925)	大阪市第二次市域拡張	旭区域が市域に編入され東成区に
	15年 (1926)	城北土地区画整理組合設立	
	2年 (1927)	京阪国道(現、国道1号)の舗装工事始まる	京阪電鉄にロマンスカー登場
	3年 (1928)	片町～森小路、東野田6丁目～森小路1丁目間で区内初の市バス運行。	
	4年 (1929)	区画整理事業による町名変更が行われる（昭和20年まで）	
		森小路、北船場、大宮で土地区画整理組合設立。	
	5年 (1930)	榎並之荘、清水で土地区画整理組合設立。	
	6年 (1931)	市電都島～守口間開通	森小路遺跡が発見される
	7年 (1932)	旭区が誕生（東成区から分区）	新森中央公園開園
	8年 (1933)	京阪国道(現、国道1号)開通	京阪電鉄蒲生～守口間高架複々線工事完成
	9年 (1934)	城北公園開園	室戸台風襲来
	12年 (1937)	御堂筋竣工	
	15年 (1940)	城北運河（現、城北川）完成	
	18年 (1943)	南半分が城東区、一部が都島区となり、現在の旭区となる。旭公園開園	
	20年 (1945)	大阪市東北部大阪大空襲（6月7日）	終戦（8月15日）
	24年 (1949)	旭区役所庁舎再建（火災焼失のため）	
	28年 (1953)	台風13号による大洪水が起こる	
平成	32年 (1957)	今里～守口間でトロリーバス運転開始	ダイエー1号店が千林にオープン
	38年 (1963)	太子橋中公園開園	
	39年 (1964)	城北公園に菖蒲園開園	
	43年 (1968)	阪神高速道路北浜～森小路間開通	
	44年 (1969)	市電全廃	
	45年 (1970)	豊里大橋完成、平太の渡し廃止	旭区役所新庁舎完成 万国博覧会開催
	46年 (1971)	阪神高速道路守口線開通	旭区全域が下水処理区域になる
	48年 (1973)	城北運河魚つり場オープン	
	49年 (1974)	城北運河歩行者専用道路完成	大阪市分区により26区に
	50年 (1975)	旭図書館、区老人福祉センター開設	
	52年 (1977)	地下鉄谷町線都島～守口間開通	千林大宮、太子橋今市駅設置。
	58年 (1983)	淀川大堰竣工	
	元年 (1989)	菅原城北大橋開通	大阪市合区により24区に
	2年 (1990)	国際花と緑の博覧会開催	
	6年 (1994)	旭スポーツセンター開設	
	12年 (2000)	旭区民センター・芸術創造館・旭図書館完成	
	14年 (2002)	旭屋内プール、城北市民学習センター開設。	

※「ぶらり探訪 旭の見どころ・知りどころ」より抜粋



旭区でそれはいつから始まったのか？

資料提供：小井戸茂

項 目	年 代	摘 要
電気	明治43年	京阪電鉄毛馬火力発電所より供給開始
水道	大正11年	城北地区一部で送水開始、大正13年に古市・清水地区まで普及
ガス	昭和3年	大阪ガスが旭区へ供給開始、昭和6年に区内全域に供給
私鉄	明治43年	京阪電車開通、森小路駅開設。昭和6年に新線(B線のみ)へ移転
市電	昭和4年	都島本通～今市間開通、昭和6年に今市～守口間開通
市バス	昭和3年	森小路1丁目～片町間運行開始、昭和6年に森小路8丁目まで延長
トリーパス	昭和32年	守口～今里間運行開始、昭和45年に廃止
地下鉄	昭和52年	谷町線都島～守口間開通
公園	昭和7年	森小路中央公園開園、次いで昭和9年に城北公園開園
郵便局	大正6年	特定局森小路郵便局開局（ただし集配は本局鯉江郵便局）
電報	昭和8年	森小路郵便局で取扱い開始
電話	明治35年	今福郵便局電話分室で交換事務開始
警察署	昭和16年	旭警察署開署、以前は今福、網島、守口3署の管轄
消防署	昭和23年	旭消防署開署、以前は今福消防署の管轄
区役所	大正14年	東成区役所出張所を千林に設置、昭和7年に旭区役所新設
保健所	昭和16年	森小路保健所開所（大宮2）、昭和38年に新庁舎へ移転
税務署	昭和7年	旭税務署開署（野江中3）、昭和41年に新築移転
総合病院	昭和7年	区内にはなし。最寄り大阪高等女子医学専門学校付属病院開院
市民病院	昭和28年	市立城北市民病院開院、平成5年に市立総合医療センターに併合
大学	昭和24年	摂南工業大学発足（半年後に大阪工業大学と改称）
実業高校	大正12年	京阪商業仮開校、公立では昭和12年に第六職工学校開校
普通高校	昭和28年	府立旭高等学校開校（設立当初は府立第48高等学校）
新制中学校	昭和22年	市立旭第一中学校開校、昭和24年に旭陽中学校と改称
小学校	明治6年	組合立千林小学校創立、大正11年に古市・清水両小学校に分離
養護学校	昭和15年	市立思斉学校開校、昭和32年に思斉養護学校と改称
幼稚園	昭和13年	私立新森幼稚園開園、公立では昭和52年に市立旭東幼稚園開設
保育所	昭和8年	市立生江保育所開所
図書館	昭和50年	旭図書館開館、平成12年に現在地に移転
映画館	昭和12年	江南キネマ開館
大相撲	昭和12年	大阪国技館開館（関目は当時旭区）、昭和16年に中止
水都祭	昭和38年	旭区淀川河畔で開催、昭和49年まで。以後天神祭奉賛行事に併合
ラジオ	大正14年	(社)大阪中央放送局放送開始、昭和6年頃から受信機普及
テレビ	昭和28年	NHK本放送開始
地方銀行	大正9年	加島銀行森小路出張所開店
都市銀行	昭和8年	三和銀行森小路出張所開設、昭和13年に支店に昇格
近代工場	明治30年	奥村織布工場開業、旭区の工業の始まり
市場	大正9年	古市村営公設市場開場（後の森小路公設市場）
スーパー	昭和27年	ニチイ千林店発足（赤のれんが改組）、後のスーパーへ
百貨店	昭和6年	高島屋森小路店開店、のち斜め向かいへ移転
近代的国道	昭和8年	国道2号（別名京阪国道）開通 ※現在は国道1号
高速道路	昭和43年	阪神高速森小路線開通
運河	昭和15年	城北運河完成（昭和12年に古市橋開通）
渡し船	明治37年	平田の渡し（豊里村営で）。延宝4年(1676)以降個人経営
市会議員	昭和4年	現旭区出身の第1号 寺西圓治郎氏
水洗便所	昭和47年	今福下水処理場完成で実現
町会隣組	昭和15年	昭和22年に解散、現行の制度は昭和50年に旭区地域振興会発足から
現住居表示	昭和46年	町は削除、丁目・番・号制に改正…新地名登場(高殿、新森、清水、太子橋)



地域の移り変わり

協力：大阪市史編纂所



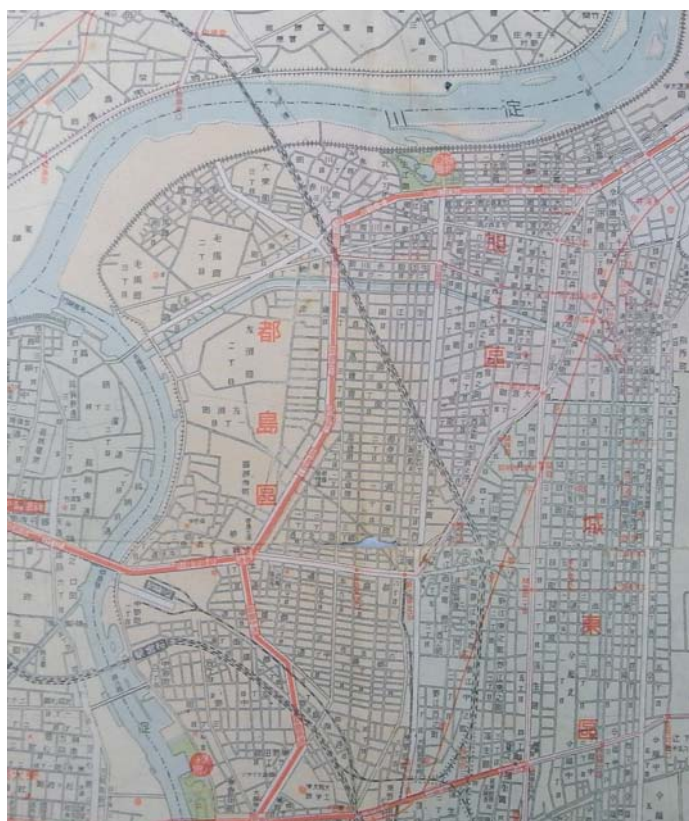
■明治20年(1887年)の旭区周辺

1887



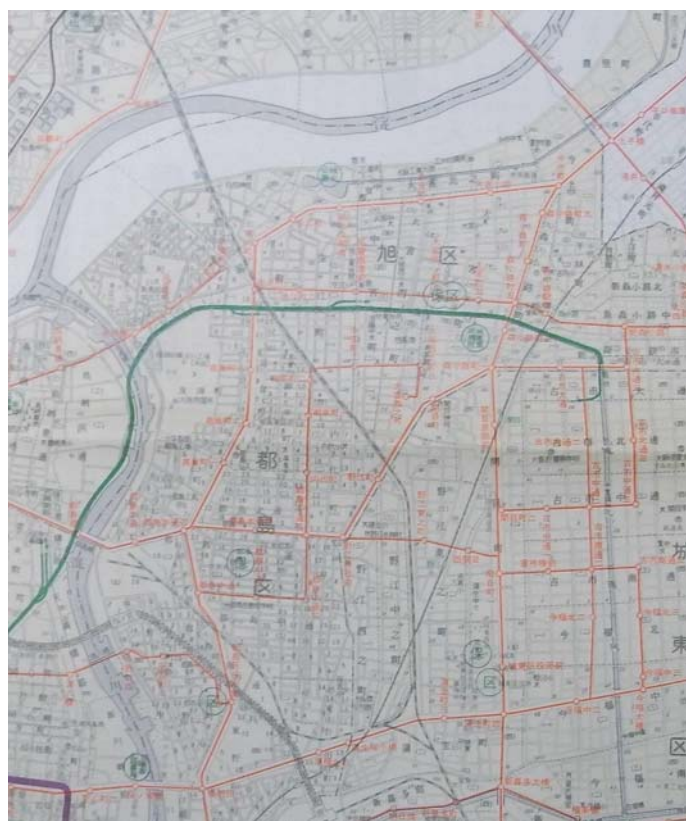
■大正14年(1925年)の旭区周辺

1925



■昭和29年(1954年)の旭区周辺

1954



■昭和45年(1970年)の旭区周辺

1970

清水

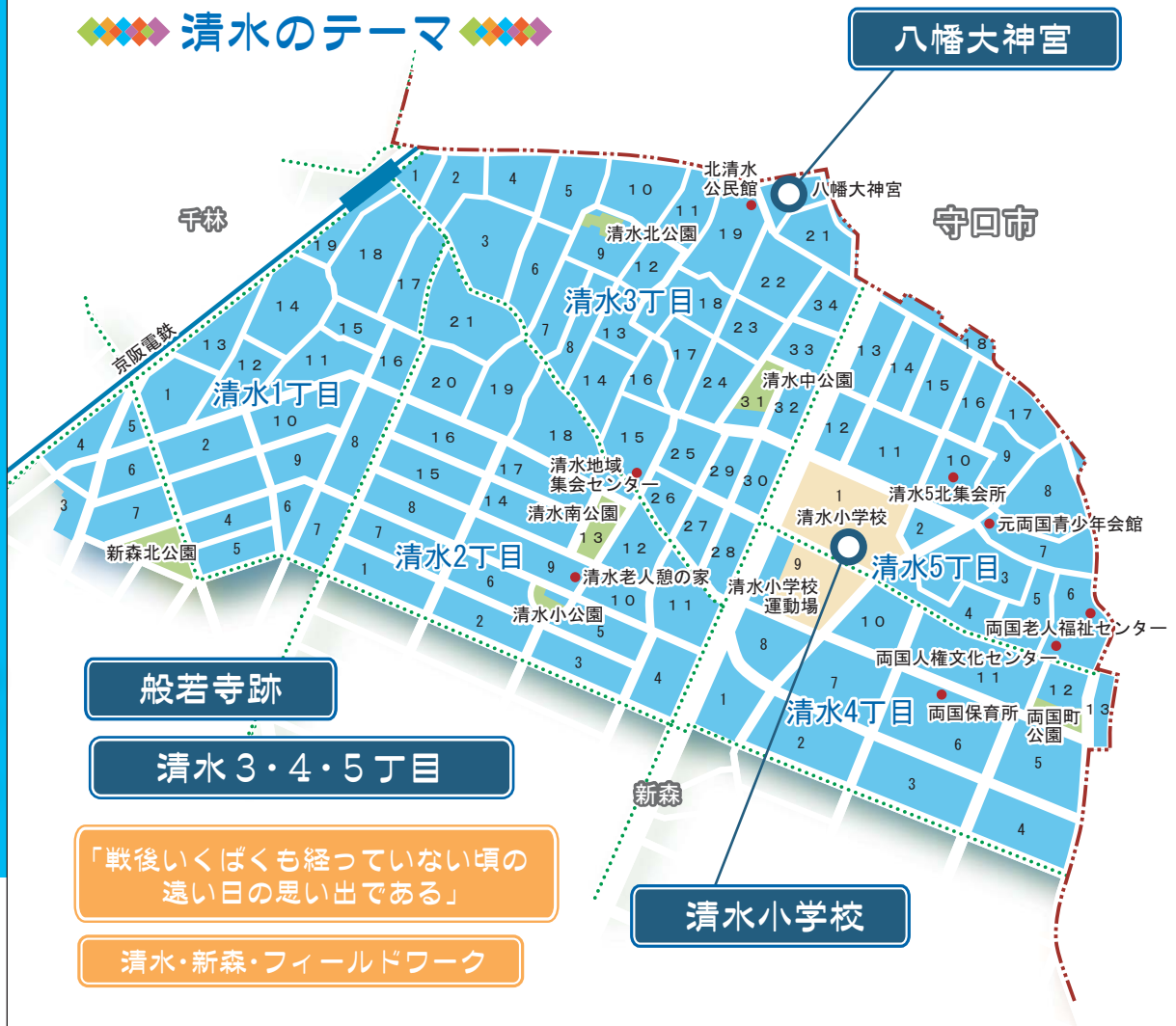
大阪市旭区
清水1丁目～5丁目

shimizu

町名の由来

町名は、産土神清水神社（八幡大神宮）の社名をとったことに由来する。

清水のテーマ



般若寺跡

清水3・4・5丁目

「戦後いくばくも経っていない頃の
遠い日の思い出である」

清水・新森・フィールドワーク

八幡大神宮



平成20年度地域史づくりワークショップメンバー敬称略・50音順

■上田(勢) ■上田(信) ■上田(泰) ■宇陀 ■遠藤 ■小椋 ■鎌田(愛) ■鎌田(信)
■草木 ■小林 ■島津 ■竹中 ■富増 ■豊田 ■中村 ■原田 ■福田

◆◆◆ ワークショップの活動記録 ◆◆◆

ワークショップ開催日	議論のポイント・内容
第1回 平成20年5月27日	してみたいこと・テーマの種を出し合う
第2回 平成20年7月10日	テーマを決める・見学やまちあるきの企画①
第3回 平成20年9月3日	テーマを決める・見学やまちあるきの企画②
第4回 平成20年9月25日	まちあるき①【鶴見緑地】
第5回 平成20年10月7日	まちあるき②【清水・新森】
第6回 平成20年10月22日	まちあるき③【高殿南】
第7回 平成20年11月5日	まちあるきの整理・担当テーマを決める
第8回 平成20年12月4日	持ち寄った資料を束ねる・発表会の検討①
第9回 平成21年1月27日	持ち寄った資料を束ねる・発表会の検討②
第10回 平成21年2月16日	持ち寄った資料を束ねる・発表会の検討③
第11回 平成21年3月5日	持ち寄った資料を束ねる・発表会の検討④
成果発表会 平成21年3月21日	
旭図書館多目的室において、 地域史づくりワークショップ発表会 「旭区 いま・むかし」を開催	



【プログラム】

- ①千林商店街の変遷
- ②映像で見る旭区
- ③平太(平田)の渡しを調べて
- ④旭図書館の蔵書紹介(旭区の歴史の調べ方)
- ⑤昔の高殿南
- ⑥新森中央公園と市バスの変遷
- ⑦地域史「清水」



八幡大神宮

はちまんだいじんぐう

不焼宮(やけずのみや 縁起)

鎮座 大阪市旭区清水三丁目二十番十九号

御祭神 八幡大神

春日大神

蛭子大神

由緒

天智天皇(661～671)の頃、現在地の辺りに藤原氏が春日大神を産土神として祀ったのが始まりといわれています。

別名を「不焼宮」といわれています。これは建武・延元(1334～1339)の頃浄土宗本山来迎寺の開祖誠阿上人が師法明上人の遺命をうけ、男山八幡宮の宝物を授かって、北河内佐太に寺院を建立するために帰る途中、これをねたむ法明上人の弟子達に追われて当宮に身を隠しましたが、見つけ出されて火を放たれました。

しかし、火はたちまちにして消えてしまい、追ってきた弟子達は誠阿上人の徳に接し、ついには上人に帰依したといわれています。以来、「不焼宮」と称されるようになりました。

その後、誠阿上人は、佐太に来迎寺を建立し、当時の保護にむくゆる為、男山八幡宮の御分霊を当宮に奉祀したのが、八幡大神を御祭神とした由来である。この縁によりて来迎寺の住職の交代毎に当社に来拝するのを例とし現在も続く。

数年後、疫病の流行にて多数の村民が死亡し、誠阿上人に悪病退散の加持祈禱を乞いその靈験により村民の病が平癒したので、従来の主神を相殿として八幡大神を主神とした。



■八幡大神宮 正面

八幡大神宮

かつて馬場村の集落北端 字榎並に鎮座し、応神天皇・春日大神・蛭子大神を祀る。旧村社。「摂津志」には「三社神祠」とみえ、馬場・般若寺・別所・上辻の鎮守。

境内は四百余坪にて老楠老榎が生い茂り社頭をおおう。本殿の他に幣殿・拝殿・御輿庫を存す。

本殿は室町末期の手法を蛙股・肘木・斗に残し彩色は稚拙なるも最高の技法を用いている。

尚、五輪塔一部、徳川初期石灯籠を残す。例祭は九月十五日 佐太来迎寺より貫主以下参拝し、神仏合体の祭典をなす。

夏祭七月十五日

秋祭十月二十三日

現在 例祭と夏祭の斎行は第二日曜日。



■八幡大神宮 本殿



■境内の様子は八幡大神宮
由緒写

本尊天筆如来出現併不焼寺古跡略縁起書抜

佐太本山記録写

抑当山安置之本尊石清水八幡宮御本身の如来出現の濫傷は人皇五十六代清和天皇の御宇男山の開山行教上人貞観元年夏九旬の方施をささげ心中に八幡宮の御本身を拝し奉らん事を祈念するに同年七月十五日の夜八幡宮まのあたり御本身を現じさせ給ひ行教の袈裟の上に弥陀観音勢至の三尊と移らせ給ふ全く是れ彩筆を以て系がきける尊像にあらず天質自然の筆なれば世に是を天筆如来と称し奉る 行教此由を 帝に奏し申されければ敬感浅からずして男山に御社を造営ありて則ち勅使を立てられ此の本尊を宝殿の内に納奉りて 八幡大菩薩の御本身と崇め奉られける 數百年を経て人皇九十七代 光明院の御宇八幡宮山の別当善法寺に神勅ましまして我れ先に本身を出現せし事は偏に利物結縁のためなりといへども時未だいたらざれば五百年來 勅封にして宝殿にあり今正に時を得たり早く 勅封を開き念仏門の本尊として諸人に結縁せしめよとの御告度々に及びしゆへ別当此由を一山にひろめ奏聞をとげ当寺に伝來し奏でる 八幡宮御本身の尊像なり本堂には放光殿と 勅号を賜ひ住持には紫衣の永 宣旨を賜て代々 参内昇殿せしめ給ふて 天顔を拜禮し住職の儀 勅命を賜ひ一個の 勅願所一宗の本山となりぬ

さて茲にやけぬの古跡と申すは当山と深き因縁あり当山本尊 天筆男山の宝殿を出し奉り初に摂津国深江の法明上人へ渡らせ給ふ時に貞三丁亥年法明上人終焉の近きを知り給ふて当山の開山誠阿闍上人へ遺言し給ふには我往生の後此本尊併宝物を護持し奉り末代々念仏弘通すべしと附囑し給ふ依て誠阿上人より外にあらずとて猶河内国大庭の莊は上人生縁の地なれば早くかしこに至りて一寺を建立し念仏弘通すべしと附囑し給ふ依て誠阿上人本尊併宝物を護持して歸り給ふに法明の遺弟等はなほだそねみて本尊を奪ひ取らんと上人を追う事しきなりければ何方に身を寄せかくれなれと思ひわづらふに堅く戸を閉じたりければ上人暫ていわく此本尊我に因縁ましまさば戸を開き我をかくし給へと誓けるに戸おのづから開き入り給ひければ戸もとの如く閉まりけり遺弟等此堂にかくることを知といへども入るべきやうなければ火を放てやかとするに火たちまちに滅してやけず又堂内に貴き御声ありてなんじ等知らずや此上人は西方極樂世界の脇土觀世音菩薩なり念仏を弘めんためにかりに世に出て給ふもし悪心をもつて儲をむすばん輩は永劫惡趣に随ひて出離の期なからんと某時本尊の御身より光明を放ち給へば彼等たちまち回心して上人に歸依しともに大庭の莊に來りて給仕せりしかしてより此堂を不焼寺と名付て当山の末寺なり

又不焼寺を村の名として開山誠阿上人の墳越なりさて某節來迎の本尊を護持しければ此村の東北に來迎といふ処今にあり其後三年を経て此処に兵五といふもの此五カ村を領しけるものにて異性あるものなるが常に殺生をこのみ人の難儀をいとさる大惡無道のものなるがあるとき神社仏閣は地所を費やすのみにて益なきものとてことごとく破却しける冥罰にや二百日をすぎず内に一族十九人残らず疫病にくるしむもの七分までも死したりければ家名断絶する然るに此一族の靈魂疫病となり我家断絶せば此の所も滅せしめんと崇をなし里人疫病に苦しむもの七分までも死したりければ五カ村の男女此由を誠阿上人に嘆きければ上人のいはく我先に急難を免るる処なれば今又なんじ等が病難を救べしとて不焼寺の地に至り給へ兵五死霊得脱のために七晝夜の間施餓鬼を修し給ふ靈魂は得脱し病人はことごとく平愈しける此時開山誠阿上人の計ひを以て本身 如来は我山に詣て拜すべし此地には垂跡を安置すべしとて方三尺の社を造り 八幡宮を安置し給ふて永く此所の鎮守とあがめさせ給ふ開山上人の修徳によつてあやふき子孫を相続しければ当山旧跡數多ありといへども相互に因縁深き古跡と申すは此処なり

右御縁起併記録之内不焼寺之由来のみ書拔候也

当山御縁起者

南都東大寺別當兼華嚴宗長吏前大僧上道如之御筆

同 御前題者

前天台座主妙法院宮一品梵延法親王之御筆

同 御箱者

時宝永三丙戌年当山茲海上人之代江戸表より御召ありて 常憲院

様 本尊の由来縁起 御上覽あらせられみきりも

第一の古跡不焼寺の因縁 上聞にも達し御寄附候

宮入り木遣り音頭

イヨイホイ 今日や 誰方も(ヨイヨイ)

御苦勞でエ 御座る(アヨイセ・トオコセ)

御苦勞なア ついでにエアソーレワヨ (ヨ) 後續む

(ソーヤツトコセイヨイヤナ・アレワイセ コレワイセソーラヨイテイトセ)

奈良の春日の神使の鹿の

鹿のなア 白い毛がエアソーレワヨ 筆となる

めでためでたの わかまつさまよ

目出た目出たの 若松様よ

えだもけ エアソーレワヨ 葉も繁る

枝も繁れば エアソーレワヨ 葉も繁る

ココの座敷は 目出たい 座敷

鶴となア 亀とが エアソーレワヨ 舞を舞う

差した盃 中見て飲みやれ

中はなア 鶴亀 エアソーレワヨ 五葉の松

あの戦後いくばくも経っていない頃の 遠い日の思い出である

千林駅のすぐ脇のガードより少し北寄りに京阪電車のガードがもう一つあった。通称：野崎ガードである。これをくぐると何故か急に、異境の地に入ったように思った。

当時、今の内環状線を渡ったところに戦後すぐに新所帯をもっていた姉の所へ乏しい生活を助ける為、母に頼まれてこれも又わずかな生活の糧を運ぶのである。

ガードをくぐり細い道(当時は道幅はせまかった)を少し行くと左手道筋に用水路が流れて居り、各家の入り口に小さい橋が架かっていた。心細く歩いていくと、正面にこの地に古くから祭られている八幡大神宮があった。石清水八幡宮の分霊を奉斉し「不焼宮(やけずのみや)」ときかされていた。それでも子供心に素通りすることなく毎回柏手を打って拝んだ。先日懐旧にかられこの道を歩いた。勿論もうあの川はない。しかしここに川が流れていたという名残か、白線がずーっと続いていた。そしておぼろげな記憶の中にあるお店が60年以上の年月を経て、何軒か残っていた。お茶の梅田三春園、辻本板ガラス屋さん、清滝温泉、大きなお屋敷の上野さん、北清水町、上辻町という名も昭和46年の町名変更で清水2丁目、3丁目と変わっていた。

しかし北清水公民館、又清水北公園にはかつてのその旧町名の由来、変遷を記した石碑があった。〈竹中〉



■現在の野崎ガードと推測される場所
(平成20年10月撮影)



清水小学校

しみずしょうがっこう

清水小学校の変遷

わたしたちの町 しみず



大阪市立清水小学校
(昭和58年当時の写真)

この本は、清水小学校創立六十周年に当たって、学校や町の様子を少しでも多く知って頂き、また、社会科の学習に役立てて頂きたいと願い編集したものです。

清水小学校は、その母胎となった千林尋常高等小学校から数えると百周年という長い歴史に支えられてきました。学校も移転を重ねる間、貴重な資料・記録が少なくなり、編集するに当たって、地域の方々より写真などの資料を提供して頂きました。あつく御礼申し上げます。まだまだ不十分な所もあり、おぎなっていかなければと考えています。提供頂ける資料などを集積し、次回の編集には、よりよい本にしていきたいと願っています。

終わりにになりましたが、この本を書くにあたり、いろいろとご協力くださった方々にたいして、心よりお礼を申し上げます。

■発行 大阪市清水小学校(昭和58年3月)
編集 大阪市立清水小学校 社会科研究部

旧清水小学校分校跡

■大阪市立清水小学校周辺(土地区画整理前)



八幡大神宮

願光寺

両国橋 野崎街道と剣街道の合流点

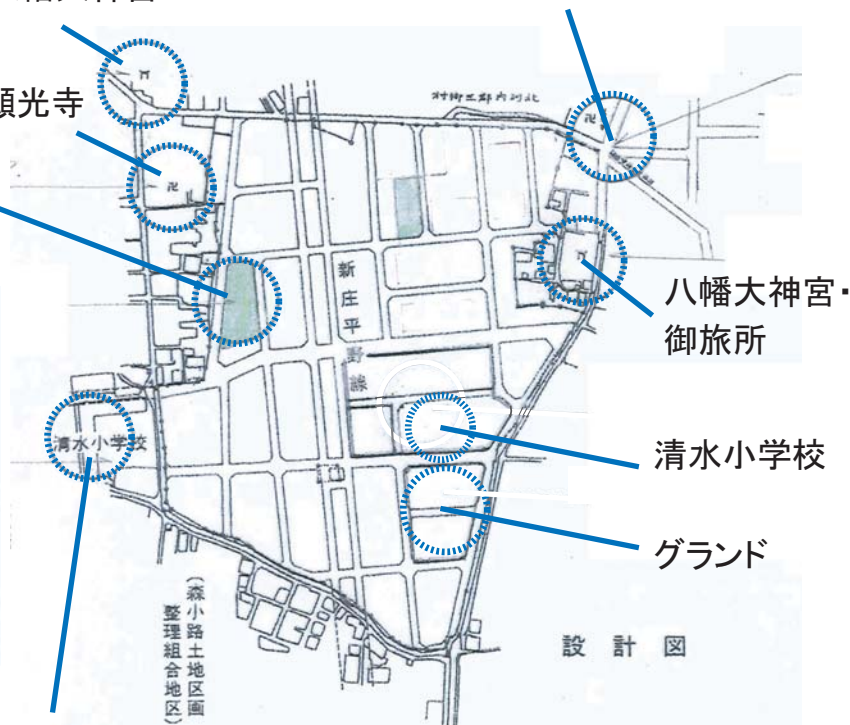
八幡大神宮・ 御旅所

清水小学校

グランド

現さくら苑 旧清水会館、旧清水小学校

■大阪市立清水小学校周辺 (土地区画整理後)



明治6年に、本校のもとになる学校が作られました。そのころ千林村と呼ばれたところにありました。今の千林商店街の三和銀行の向かい側辺りにあったようです。40数年間、学校として親しまれました。初めの頃は、小学校は4年間だけで、卒業したあと、二年間の高等科へ行く人もいました。皆さんのおじいさんやおばあさんの中には、この学校で勉強された方がおられるかもしれませんね。

昭和に入って、新森地区に家が多くなり児童数も増えました。教室が足りなくなり、昭和13年に、清水中公園の所に「仮校舎」が作られ、24年まで使われました。

戦争後の混乱から、社会がようやく立ち直り始めた頃、清水小学校は現在の場所に移りました。
(1951年・昭和26)

大正十一年、清水小学校が創立されました。しばらくの間、千林の小学校の校舎を使っていましたが、十二月十日に、今の清水会館の所に新しい校舎が建てられ、清水村の小学校となりました。大正十四年に、大阪市の東成区となり、大阪市立清水小学校となりました。三十数年間、清水会館の所が学校として親しまれてきました。

戦争も終わり、学校もはじまりましたが、増え続けた児童数に教室が足りなくなり二十四年になると、清水南小学校が分かれて、新森小路小学校がうまれました。やがて、二十六年になると、広い校地を求めて、現在の所へ移転が始まりました。しばらくの間は、清水会館と両方使われていましたが、本校がこちらへ移り、清水会館の所は、廃止されました。

この書冊は、清水小学校を中心として調査、研究され、47ページにわたって記載された地域史です。

清水小学校南側に 水路があった



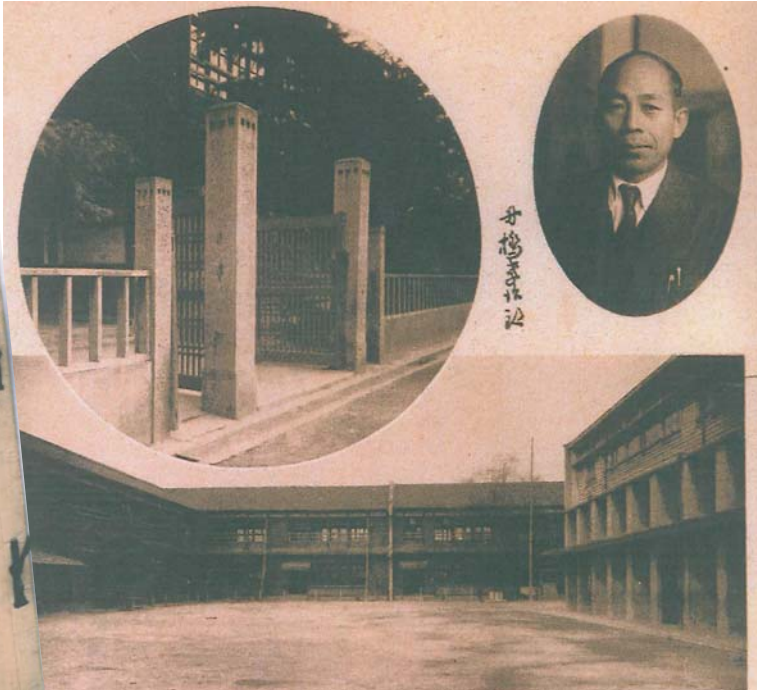
■旧清水小学校 卒業記念帖

■旧清水小学校(現、旭さくら苑)(写真:旧清水小学校卒業記念帖より)



昭和25年(1950年)の卒業記念アルバム

母校は千林尋常高等学校小学校、明治6年（1873年）創設。
現在地への移転は昭和26年（1951年）からはじまりました。



■清水小学校 正門（1950年）

北清水町関連年表

北清水町は八幡大神宮の旧町名です。北清水地車囃子保存会は43年の歴史があります。

目丁三水清区旭市阪大			町水清北区旭市阪大					町水清北区成東市阪大				場馬字		
平成 18	昭和 56	昭和 46	昭和 41	昭和 23	昭和 18	昭和 16	昭和 12	昭和 7	昭和 6	昭和 5	昭和 4	大正 14	大正 11	明治 43
二〇〇六	一九八一	一九七一	一九六六	一九四八	一九四三	一九四一	一九三七	一九三二	一九三一	一九三〇	一九二九	一九二五	一九二二	一九一〇
地下鉄今里筋線開通。清水駅設置	北清水公民館建て替え	住居表示実施	北清水地車囃子保存会発足	旭第三中学校（旭東中学校）開校	旭区の南部、西部地域を城東区、都島区に分区	太平洋戦争に突入	日中戦争始まる	旭区誕生（東成区から分区：大阪市一五区となる）	京阪電車高架線完成	清水土地区画整理組合設立（昭和一四年工事完了）	森小路土地区画整理組合設立（昭和七年工事完了）	大阪市第二次市域拡張。東成郡は大阪市に編入され東成区となる（大阪市一三区となる）。北清水町誕生	清水小学校創立	京阪電車開通



■清水小学校 大正11年（1922年）創立

この写真は、1950年の卒業アルバムより

大村水清郡成東府阪大				村場馬郡成東國津摂府阪大				村場馬郡成東國津摂				地名	北清水町関連年表
明治37	明治32	明治27	明治22	明治18	明治6	明治5	明治4	文化2	元和5	元和元	文亀元	和銅6	
西暦	西暦	西暦	西暦	西暦	西暦	西暦	西暦	西暦	西暦	西暦	西暦	西暦	
1904	1899	1894	1889	1885	1873	1872	1871	1805	1619	1614	1501	713	事項
日露戦争始まる	新淀川工事着工(明治四三年完成)	日清戦争始まる	市制町村制施行。清水村誕生(馬場、般若寺、上ノ辻別所、貝脇の五村が合併)。大阪市発足(東西南北四区)	淀川左岸決壊し、大洪水起こる	千林小学校創立(清水、古市小学校の前身)	東成郡が三区に分けられ、馬場村は第三区に属す	廃藩置県。現大阪府発足	伊能忠敬淀川沿いを測量	江戸幕府大阪城代を置く (以降明治維新まで当地は幕府直轄領となる)	摂津、河内、和泉を没収 大阪夏の陣(豊臣氏滅亡)。幕府は豊臣氏の所領	願光寺開創	東生郡(ひがしいくのごおり…後の東成郡)誕生	

清水3丁目「上辻町」

清水北公園に地元の方が写された、旧町名継承碑「上辻町」があります

当町は明治初頭、東成郡上辻村の一部であった。大正14年4月大阪市に編入され東成郡上辻村の一部となり昭和7年10月行政区画の変更にともない旭区上辻町となった。同46年9月住居表示の実施にともない、清水二～三丁目、今市二丁目の各一部となった。



■清水三丁目 旧町名継承碑「上辻町」

清水3丁目「西光寺の今昔」

町名は、京街道から分かれて河内の国へ入る道路が上っ道(北の道)と、下っ道(南の道)の二つがあったことに由来する。摂津と河内を分ける道の摂津側の境に上辻村、下辻村の二村があった。異説として、東成郡当時の村社八幡大神宮の神の辻が上の辻に変わったとするものや、放出の阿遅速雄神社への参道にあたるとの説もある。

平成六年二月 大阪市旭区役所



旧西光寺は平成14年9月解体
新西光寺は平成15年5月新築です

西光寺(浄土真宗 本願寺派)



■清水3丁目 西光寺



■平成14年頃

江州音頭



■郷土芸術江州音頭

盆踊りの歴史

上辻町（清水3西町会）

昭和52年8月～53年8月 2年間
江州音頭会（桜川唯丸会）を招待して
町内の盆踊りを開始

昭和54年8月

江州音頭上辻会 結成

町内青年会、町会役員が音頭をとる
10年間

昭和63年6月11日

桜川唯春会 結成

平成7年 桜川孝春会と改名

平成17年5月7日 桜川孝春会
解散 17年間

平成20年8月

江州音頭上辻会 再結成

大関 松乃音関



■大関 松乃音

上辻村出身大関松乃音関がいました。八幡大神宮に松乃音の碑があります。大正時代当時相撲協会が関東相撲と関西相撲に分かれていた。関西相撲では最高位が大関でした。 東成郡記



大阪相撲記事

（資料：松下電器松愛会）

■八幡大神宮 松乃音の碑



般若寺跡

はんにゃじあと

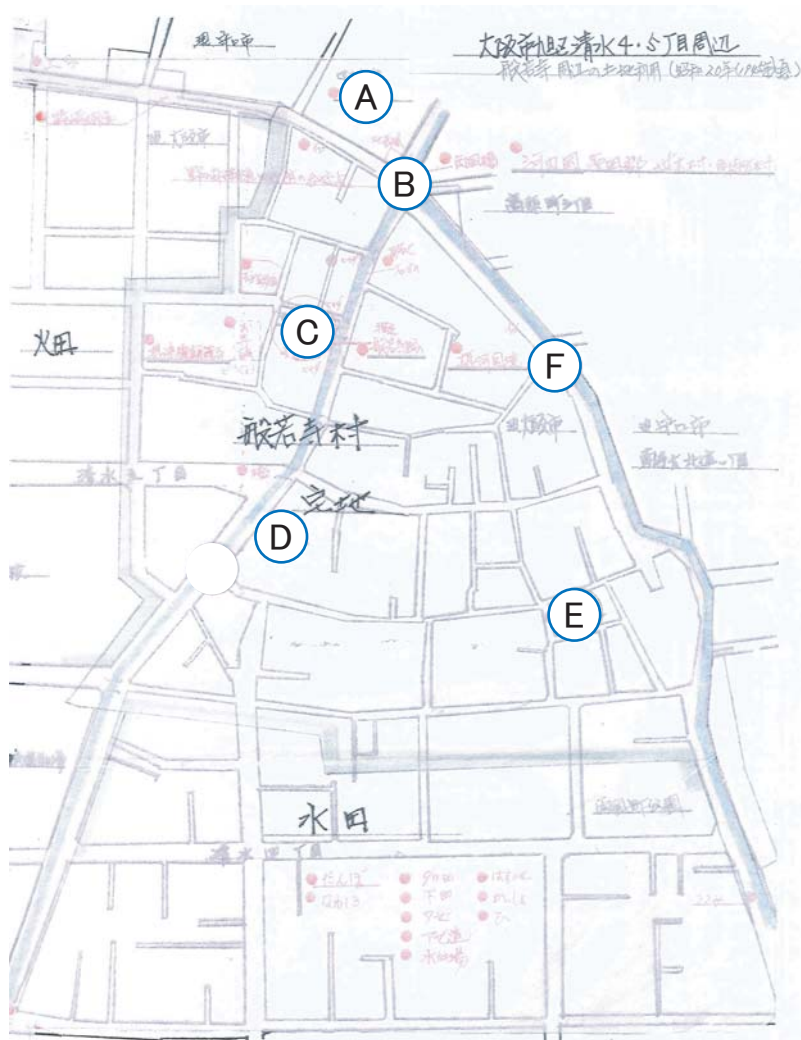
清水4・5丁目周辺「般若寺跡」について

「般若寺跡」について、大阪市旭区郷土資料室に関係資料が展示されており、この資料によると「般若寺跡」は八幡大神宮御旅所(推定)とあり写真の説明文は次のとおりである。

般若寺周辺の土地利用



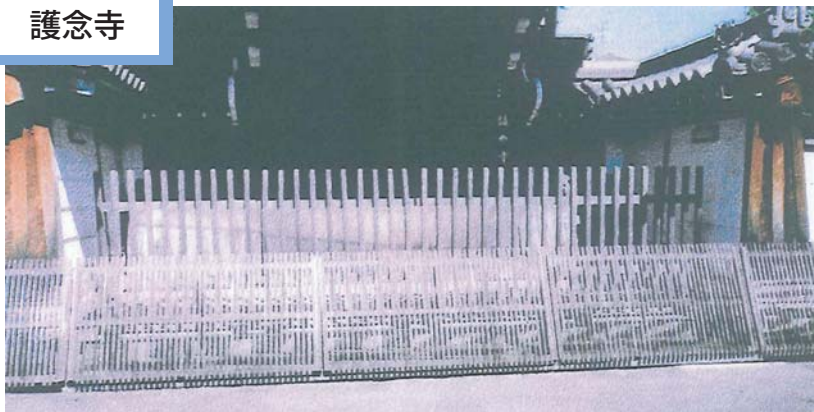
■清水地区の農道風景
(鶴見公園・自然体験観察園より) (平成20年10月)



■昭和20年(1945年)頃

もとは般若寺村と呼ばれた清水4～5丁目あたりには、後醍醐天皇が京都の大徳寺の大灯国師を迎えて建てた般若寺という大きなお寺があったといわれています。お寺の境内に六百巻の大般若経を埋めたことから般若寺と名付けられたとつたえています。(財)大阪市文化財協会

A 護念寺



■護念寺

B 両国橋



■野崎街道と
剣街道の合流点

「般若寺村」は江戸期より明治22年までの村名で、その後明治22年から大正14年の清水村の大字名である。村名ともなった般若寺について、貞和5年(1349)11月27日の大徳寺領庄園文章目録(大徳寺文章)に「摂津榎並般若寺寄進状 以下十参通」と寺領が大徳寺に寄進されており、ここに般若寺という名が初めて見える。650年以前の古い地名である。

しかし、般若寺跡は未だに特定されていない。この特定には、遺跡や遺構、瓦や土器など人工遺物、自然遺物、木簡などの文字資料など、あらゆるモノの発見と今後の遺跡の発掘や古い資料の収集が課題である。

C 推定) 般若寺跡



■八幡大神宮 御旅所
推定 般若寺跡(財)大阪市文化財協会

D 地藏様



■地藏様 清水五丁目

E 誓願寺



■ 誓願寺



F 摂河国境

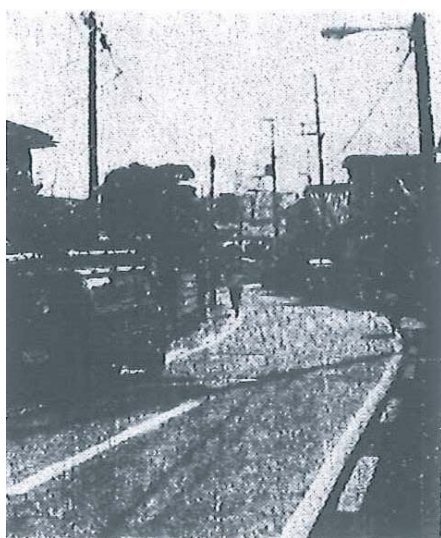


■ 摂河国境

このような状況の中で一つの手掛かりとして整理したものが「般若寺周辺の土地利用」(昭和20年(1945)頃)である。当時の地名を地図上にいちづけ、それらの土地が人々にどのように利用されていたかを理解しようと試みた。これがすぐに般若寺跡につながらないが、少なくとも今から数十年前の村の様子である。そして現在の写真を添えた。

2008.11.6 福田輝雄

剣街道関連記事



■ 旭区史掲載の写真 剣街道
(新森7丁目)

「剣街道」(関連資料)

『旭区史』 編集 大阪都市協会 昭和58年3月31日発行

この資料によると「剣街道は、別所町から下之辻、放出を経て阿遅速雄神社へ至る道路幅一間半(2.7m)の街道で、別名縄手街道とも言われていた。剣街道となった由来は、その昔、河内佐太の来迎寺の開祖・誠阿上人が深江ムラの僧や信徒に剣をもって追いかけられ、清水の八幡社へ逃げ込んだという伝説から名付けられたという」



■ 現在の写真 (2008.11.15 撮影)
(新森7丁目)

街道沿いに発展

一方、大阪から京都へ通じる京街道をはじめ、野崎街道、杉山街道、剣街道などの各街道が旧旭区を通っており、その街道沿いに集落ができ、街へ発展していった。



『大阪平野のおいたち』 発行1986年12月1日

著者: 梶山彦太郎・市原実(出版: 青木書店)

この書籍の中に「図IX-5 河内湖奥、旧汀線推定資料図 (汀線: 陸地と水面のさかい) 陸地測量部、明治18年仮製版図による」が掲載されており、この資料に「剣街道」と「摂津河内国境」の位置が示されている。

■ 図IX-5 河内湖奥、
旧汀線推定資料図 (陸地測量部、明治18年仮製版図による)

(出典: 「大阪平野のおいたち」
著者: 梶山彦太郎・市原実/出版: 青木書店)

清水・新森フィールドワーク

平成20年10月7日のワークショップでは、清水・新森地域を実際に見て歩きながらテーマを発見するフィールドワークを行いました。新森中央公園に集合し、森小路遺跡を見た後、新森と清水にある歴史的なポイントを、ワークショップ参加者の案内のもと、約2時間をかけて見て歩きました。



memo メモ

メモ

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

旭区地域史

区民による地域史づくり・人づくり

大阪市旭区地域史づくりワークショップ

【清水編】

平成21年3月

- 編集／旭区^{いまむかし}の今昔を知る会
- 発行／大阪市旭区役所区民企画担当
- 協力／総合調査設計株式会社

この冊子は、区民の方が中心となって現地確認、聞きとりなどの調査、情報収集をして作成しました。

旭区の今昔を知る会からのお願い

旭区の地域史づくりにご協力ください。

旭区の歴史を子どもたちに残すため、みなさんが持っておられる古い写真や資料をお貸しください。

■江戸時代や明治時代から昭和40年代頃までの、旭区の風景、行事などを写した写真、又は古い資料や道具などなんでも結構です。

■お借りしました写真や資料等は大切に取り扱い、写真データ等におさめた後、返却いたします。

■お借りしました写真や資料等は、地域史作成のための資料や地域史に掲載させていただくほか、旭区役所が実施します各種事業に使用させていただく場合がありますので、ご了承をお願いいたします。

なお、地域史は今後数年かけて作成する予定ですので、お借りしました資料等の掲載にはお時間がかかることがあります。
詳しくは旭区役所区民企画担当(企画振興)までお問い合わせください。

「旭区^{いまむかし}の今昔を知る会」とは

平成18年度から公募で集まったメンバーで、区内10地域の身近な歴史や思い出などをとりまとめ、順次「地域史」を作成しています。本会では、地域史の作成を通じて、これまで積み重ねてきた経験等を活かした人材の育成、コミュニティのさらなる向上を目指すものと考えています。



平成21年3月

本内容に関するお問い合わせは
大阪市旭区役所区民企画担当まで
tel06 (6957) 9734